

第1章 アフリカ農産物輸出における 植物性油脂と香辛料の位置づけ

第1章 アフリカ農産物輸出における植物性油脂と香辛料の位置づけ

アフリカへの農産物輸出能力増大に資する農業協力の方向性を検討するために、世界の農産物貿易におけるアフリカからの農産物輸出の位置づけを整理する。そのなかでアフリカの農産物輸出の拡大に向けたあるべき姿、課題、必要な支援が見えてくる。

1.1 世界の農産物貿易におけるアフリカ農産物輸出の現状

1.1.1 世界の農産物貿易の現状

(1) 国際農産物貿易におけるアフリカ農産物貿易の現状

表 1.1 世界の農産物貿易におけるアフリカからの輸出量と割合

年	単位: \$ billion		
	世界の農産物輸出量	アフリカからの農産物輸出量	アフリカの占める割合
2000	411	14.8	3.6%
2001	423	15.3	3.6%
2002	443	16.8	3.8%
2003	527	20.4	3.9%
2004	594	22.8	3.8%
2005	686	23.0	3.4%

世界の農産物貿易におけるアフリカの農産物輸出が占める割合は、表 1.1 で示すように世界の農産物貿易拡大の波に乗っているものの、世界の農産物輸出量の 3~4%にすぎず、非常に小さい。

出所: United Nations/COMTRADE より調査団作成

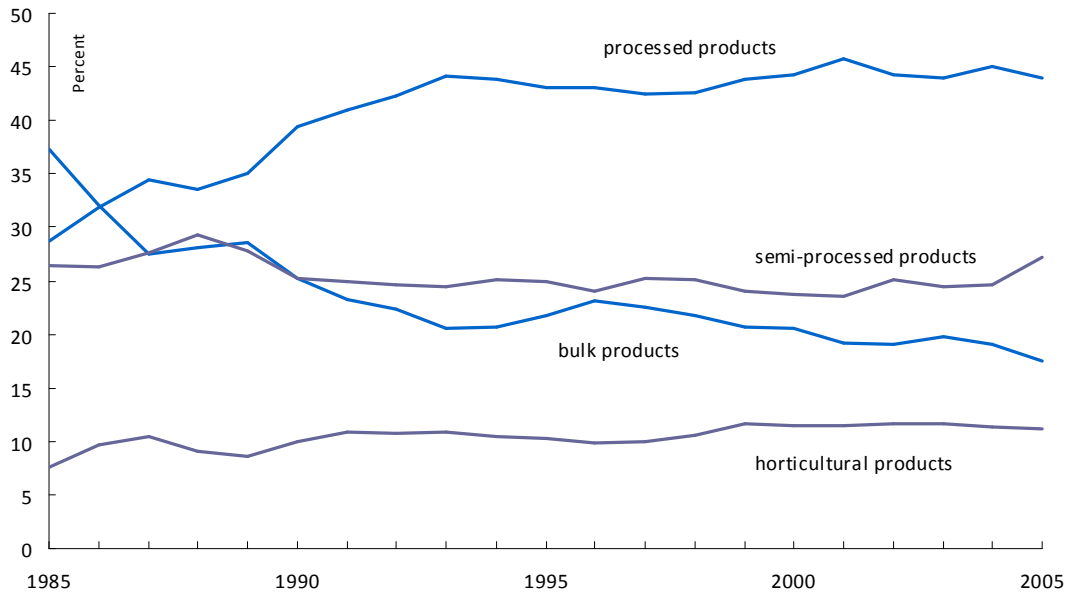
経済協力開発機構（OECD）が、農産物を次の 4 つのカテゴリーに分けており、最近の農産物貿易に傾向をみると以下のことが言える。（次ページ図参照）¹

- ・ バルク産品（小麦、コーヒーなど）：生産地の土壌や気候に依存する産品
- ・ 園芸作物（野菜、果実類、切花など）：生産地の土壌や気候に依存する産品
- ・ 半加工製品（動物性油脂、植物性油脂など）：生産地の土壌や気候に依存しない産品
- ・ 加工製品（チョコレート、飲料、冷凍肉など）：生産地の土壌や気候に依存しない産品

世界の農産物貿易は、過去 20 年間、加工食品と園芸作物（野菜・果実類、切花など）の国際貿易は、穀物の 2 倍のペースで伸びており、国際農産物貿易の主流がもはや穀物（バルク産品）ではなくなっていることが分かる。

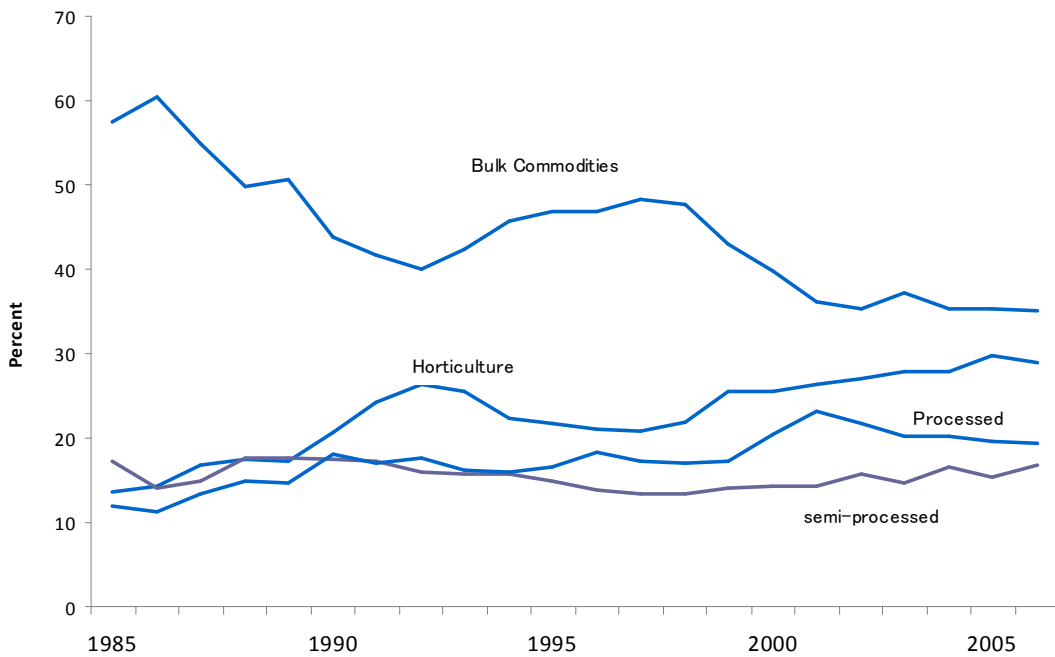
参考までに 2000 年におけるアフリカからの 4 大農産物輸出産品は、コーヒー、綿花、タバコ、茶などバルク産品であったが、2005 年にはココア豆、綿花、砂糖、ワインとなり、加工食品も出現してきた。また 2002 年から 2005 年の間でアフリカ最大の農産物輸出国は、南アフリカ、コートジボアール、ガーナである。

¹ OECD, Business for Development 2008, Promoting Commercial Agriculture in Africa



出所：United Nations/COMTRADE

図 1.1 輸出産品別に見た最近の国際農産物貿易の傾向



出所：United Nations/COMTRADE

図 1.2 輸出産品別の国際農産物貿易に占めるアフリカの割合

図 4.2 で示すようにアフリカの農産物輸出も園芸作物や加工品、半加工品、加工品の国際農産物貿易に占める割合が増えているが、現時点では、アフリカの輸出農産物がアフリカの土壌や気候条件に依存するバルク産品や園芸作物が多いことには変わりはない。世界の農産物貿易において、バルク産品の依存度が低下し、バリューチェーンにおける川下部分の産品が重要になってきている中で、依然としてバルク産品に依存するアフリカのような開発途上国が、国際農産物市場において、ますます厳しい状況に置かれているといえる。

(2) 新たな市場としての中国、インドへの輸出

表 1.2 に示すように、世界の農産物輸出におけるアフリカの割合が年々減少しているなかで、中国とインドへのアフリカからの農産物輸出が増加しており、今後の重要な市場となりつつある。

表 1.2 アフリカから中国・インドへの農産物輸出量

(単位: \$million)

		1995-97	1998-00	2001-03	2004-06
中国	アフリカからの農産物輸入量 (A)	166	57	174	953
	アフリカからの全産品輸入量 (B)	1,783	3,135	6,193	21,826
	全輸入に占める農産物の割合 (A)/(B)	9.3%	1.8%	2.8%	4.4%
インド	アフリカからの農産物輸入量 (C)	222	369	403	594
	アフリカからの全産品輸入量 (D)	2,589	4,180	3,072	4,348
	全輸入に占める農産物の割合 (C)/(D)	8.6%	8.8%	13.1%	13.7%
全世界	アフリカからの農産物輸入量 (E)	15795	15712	17535	22730
	アフリカからの全産品輸入量 (F)	120,645	128,985	164,287	299,007
	全輸入に占める農産物の割合 (E)/(F)	13.1%	12.2%	10.7%	7.6%

出所: UN COMTRADE を基に調査団作成

(3) アフリカ域内の農産物輸出

アフリカ域内の農産物貿易は、毎年 16-17%伸びており、産品についてもバルク産品は減少しているが、園芸作物、半加工品、加工品が増加している。後述のように海外からの加工食品の輸入の増加とあいまって、アフリカ域内においても加工食品のニーズが増大しつつある。(図 1.3 参照)

表 1.3 アフリカ域内の農産物貿易量

(単位: \$million)

	アフリカからの農産物輸入量			
	1995-1997	1998-2000	2001-2003	2004-2006
全アフリカ	1,309	1,656	2,820	2,461
4大国				
アルジェリア	85	128	91	132
エジプト	123	135	183	70
ナイジェリア	25	25	152	...
南アフリカ	181	123	135	197
産品別割合				
バルク	45.8	40.0	29.5	27.0
園芸作物	6.5	6.2	6.7	7.7
半加工製品	20.2	20.5	20.7	20.9
加工製品	27.5	33.3	43.1	44.4
計	100	100	100	100

出所: UN COMTRADE から調査団が作成

注) 全アフリカ 4 大国は、農産物輸入額が最も多いトップ4

1. 1.2 アフリカの農産物貿易の現状

表 1.4 アフリカの農産物・食品の輸出入額比較

(単位: \$ millions)

表 1.4 に示すようにアフリカでは、ガーナ、コートジボアール、ケニア、ザンビア、ブルキナファソなどアフリカの主要輸出産品である油糧種子や園芸作物などの輸出を行っている国を除いてほとんどの国が農産物及び食品の輸出よりも輸入量が多い。

アフリカにおいては、輸入農産物のほとんどは小麦や米などの穀物や加工食品である。穀物の国内自給分の不足をキャッサバなどの根菜類が支えているとはいえ、それでも不十分なためほとんどのアフリカの国が農産物の輸入に食糧を依存している。

アフリカにおける輸出用作物生産の農業総生産に占める割合は大きくはないが、土地生産性は高いといわれている。しかし、それがもたらす外貨の半分以上が穀物生産の不足を補うために消費されてしまうことが現実であり、アフリカの農業生産性向上による穀物自給率のアップと併せて、農家所得の向上が必要である。

国名	農産物		食品		穀物 自給率
	輸出	輸入	輸出	輸入	
アルジェリア	61	3,971	50	3,456	41.9
アンゴラ	6	985	1	741	25.7
ウガンダ	417	316	78	269	88.9
エジプト	1,187	3,989	900	3,356	64.5
エチオピア	382	425	125	385	79.4
エリトリア	3	127	2	126	20.9
ガーナ	1,344	1,074	1,302	729	77.0
カーボベルデ	0	113	0	88	10.9
ガボン	17	227	2	185	16.5
カメルーン	608	458	347	428	67.8
ガンビア	17	155	15	127	55.7
ギニア	70	220	42	154	73.0
ケニア	1,423	519	393	413	73.4
コートジボワール	3,180	683	2,614	535	55.1
コモロ	29	34	26	30	26.5
コンゴ共和国	40	261	30	301	2.8
コンゴ民主共和国	39	336	8	227	67.5
サントメプリンシペ	4	20	4	14	16.2
ザンビア	322	173	159	139	73.0
ジブチ	12	163	11	119	0.0
シラレオネ	14	156	11	98	39.2
ジンバブエ	847	468	115	371	65.8
スーダン	626	642	307	572	112.8
スワジランド	272	74	262	54	31.0
セイシェル	12	78	6	67	0.0
赤道ギニア	7	57	6	24	**
セネガル	156	890	102	798	57.6
ソマリア	88	152	85	148	**
タンザニア	534	342	146	278	80.2
チャド	123	80	55	65	99.6
中央アフリカ	16	33	15	26	82.0
チュニジア	974	1,206	783	874	66.2
トーゴ	96	85	50	64	83.0
ナイジェリア	623	2,285	548	2,024	83.7
ナミビア	249	278	145	197	31.1
ニジェール	71	262	65	226	95.1
ビニアビスアウ	62	44	62	35	54.8
ブルキナファソ	338	169	63	108	102.2
ブルンディ	54	19	1	16	**
ベナン	240	267	44	244	93.8
ボツワナ	52	126	49	92	14.3
マダガスカル	122	90	104	80	85.9
マラウイ	397	100	76	59	95.8
マリ	334	160	121	123	90.0
南アフリカ	4,184	2,753	2,680	1,731	85.2
モーリシャス	429	426	371	335	0.1
モーリタニア	34	345	16	239	25.1
モザンビーク	124	343	...	301	69.5
モロッコ	1,430	2,367	168	1,776	77.5
リビア	12	1,150	1	1,049	10.8
リベリア	96	121	3	105	21.5
ルワンダ	34	58	1	50	85.8
レソト	6	60	1	47	33.7
平均	412	565	242	455	56.2

出所: Africa Development Indicators 2007/08 (The World Bank) (2004-2005年)

穀物自給率は、世界の穀物自給率マップ (2003年)

1.2 アフリカの植物性油脂と香辛料におけるヨーロッパ市場ニーズ

本年度は、ケーススタディとしてナイジェリアからの植物性油脂（シアナッツとゴマ）とマダガスカルからの香辛料（バニラとクローブ）がドイツなど EU 市場へ輸出されている実態を調査することとしている。ここではアフリカ農業協力の検討のために植物性油脂及び香辛料のヨーロッパにおける市場ニーズを改めて確認する。²

（1）ヨーロッパにおける植物性油脂市場のニーズ

EU における主な植物性油脂は、ヤシ油、ヒマワリ油、ココナッツ油、パーム核油、落花生油などがあり、油糧種子ではヒマワリ種子やゴマ種子がある。植物性油脂の消費国は多い順にドイツ(19%)、オランダ(17%)、スペイン(11%)、イタリア(10%)、英国(10%)、フランス(10%)である。

EU はほとんどの植物性油脂を開発途上国からの輸入に依存しており、2005 年には EU 全体で年間 80 億ユーロ（10.2 百万トン）にもものぼる。EU の特徴は、オランダやドイツが自国で消費すると同時に EU 域内外に再輸出をすることにあり、油脂は開発途上国からの原材料を加工することになる。

開発途上国からの植物性油脂においては、ヤシ油、ココナッツ油、ヤシ核油はマレーシアとインドネシアからの輸出がほとんどであるが、ニッチの市場として今回の調査対象であるシアバターやゴマ油が注目されている。

EU へのゴマ種子の開発途上国からの輸出は年々増加しており、アフリカからもエチオピア、スーダン、ナイジェリアが輸出国となっている。EU へのゴマ油そのものの輸出量は現時点では多くないが、今後増加することが見込まれる。（中国はゴマ種子の輸入国となっており、もはや輸出元ではない。今後、中国は植物性油脂の大きな市場になることが見込まれる）。

表 1.5 ゴマ種子の EU への主要輸出入元（2001～2005 年）

（単位：Million Euro）

	2001年	2003年	2005年	2005年におけるEUへの輸出シェア	割合
EU域内	16.4	21.1	24.1	オランダ(11%)、ドイツ(4%)、英国(2%)	22%
EU域外(開発途上国以外)	1.3	1.0	0.6	---	0.60%
開発途上国	76.4	68.2	86.2	インド(41%)、エチオピア(8%)、グアテマラ(7%)、スーダン(5%)、パラグアイ(4%)、パキスタン(2%)、ベネズエラ(2%)、ナイジェリア(1%)、メキシコ(1%)、トルコ(1%)	78%

出所：CBI Market Survey

² CBI Market Survey, The Vegetable Oils and Fats (including Oil Seeds) Market in the EU, July, 2007

表 1.6 ゴマ油の EU への主要輸出入元 (2001 年～2005 年)

(単位: Million Euro)

	2001年	2003年	2005年	2005年におけるEUへの輸出シェア	割合
EU域内	6.7	7.4	19.3	オランダ(20%)、ドイツ(8%)、フランス(4%)、英国(4%)	39%
EU域外(開発途上国以外)	4.0	3.7	3.0	シンガポール(8%)、香港(3%)、米国(2%)	16%
開発途上国	4.7	5.7	8.7	メキシコ(21%)、中国(13%)、インド(4%)、マレーシア(2%)、トルコ(2%)、ニカラグア(1%)	45%

出所: CBI Market Survey

(2) ヨーロッパにおける香辛料市場のニーズ³

EU が消費する主な香辛料は、胡椒、唐辛子、オールスパイスなどであり、4大消費国は、ハンガリー、ドイツ、オランダ、英国である。EU における香辛料の顧客は3つのセグメントに分かれ、食品産業が 55～60%、小売業が 35～40%、仕出し業が 10～15%となっている。

香辛料の EU 市場のトレンドは、次のようにまとめることができる。

- ・ 食の国際化やエスニック料理の増加に伴い、香辛料への関心が高まっている。
- ・ 人工的な添加物でない自然の食材や健康食品、有機農産物への関心が高まってきた。
- ・ ビザなど調理済み食品生産のために食品産業で香辛料の使用が拡大している。

EU における香辛料の主要輸入国は、ドイツ、英国、オランダ、フランス、スペインで、それらは開発途上国から多くの香辛料を輸入しており、その輸入量も年々増加している。

それらの EU の輸入業者は、開発途上国からバルクの状態で輸入し、加工や再包装により EU 域内外への再輸出をしている。

近年、加工食品の安全性が消費者から強く要求されるようになり、加工食品の副原料としての香辛料の安全性（残留農薬やカビ毒など）について、食品産業からの原材料の安全性確保への要求がより厳しくなっている。ドイツのヨーロッパ香辛料協会⁴では、品質や安全性などについて最低限守るべき基準についてのマニュアルを作成し、輸出業者を指導している。

バニラ、クローブともマダガスカルが EU への主要輸出国であり、年々輸出量が減少しているが、フランスやドイツの輸出はマダガスカルなどからの再輸出であり、マダガスカルは輸出国としての位置は今後も変わらないものと思われる。

³ <http://www.esa-spices.org/home/>

表 1.7 バニラの EU への輸出元 (2001～2005 年)

(単位: Million Euro)

	2002年	2004年	2005年	2005年におけるEUへの輸出シェア	割合
EU域内	27	30	13	フランス(13%)、ドイツ(11%)、オランダ(2%)、ポーランド(1%)、仏領ポリネシア(2%)	30%
EU域外(開発途上国以外)	5	10	2	米国(2%)	4%
開発途上国	85	60	29	マダガスカル(46%)、インド(6%)、ウガンダ(5%)、インドネシア(3%)、コモロ(3%)	66%

出所: CBI Market Survey

表 1.8 クローブの EU への輸出元 (2001～2005 年)

(単位: Million Euro)

	2002年	2004年	2005年	2005年におけるEUへの輸出シェア	割合
EU域内	5	3	4	オランダ(16%)、ドイツ(9%)、フランス(5%)、オーストリア(2%)、ベルギー(2%)	42%
EU域外(開発途上国以外)	0	0	0	---	0%
開発途上国	15	4	6	マダガスカル(20%)、コモロ(18%)、ブラジル(8%)、インドネシア(6%)、スリランカ(2%)	57%

出所: CBI Market Survey